

# サービス等利用計画と 個別支援計画の関係

令和2年度

兵庫県サービス管理責任者等 基礎研修 共通講義

社会福祉法人 福成会

島 祐貴

# 講義の構成

## ▶ 【第1部（講義）】

1. 計画の必要性
2. 計画の特徴と関係
3. 連携の必要性
4. 会議の場を活用した連携
5. 横の連携と縦の連携

## ▶ 【第2部（対談）】

事例から考える計画と連携の重要性

# 講義で使用する用語について

- ➡ サービス管理責任者（サビ管）  
※児童発達支援管理責任者と同義
- ➡ サービス等利用計画  
※障害児支援利用計画と同義
- ➡ 個別支援計画  
※児童発達支援計画と同義
- ➡ サービス担当者会議  
※障害児支援担当者会議と同義

# この講義の目的

1. サービス等利用計画と個別支援計画の関係性と必要性を理解する。
2. 様々な場面による連携と、その必要性を理解する。
3. 生活の全体像をイメージしながら、事業所におけるサービスに重点を置いた個別支援計画を作成する視点を獲得する。

# 1.

## 計画の必要性

もし計画がなかったら？

- ニーズや支援方法が不明確
- 支援者の良かれと思う支援
  - ⇒ ありがた迷惑、個人の価値観の押し付け
  - ⇒ 権利侵害が起きる危険性

【計画がない時】



【計画がある時】



# 1. 計画の必要性

生きていくうえで **変化する**

**ニーズ** を



支援の

**根拠**

として



**可視化**

し、



支援の

**方向性を共有**

することで、



**自分らしい生き方（暮らし）を実現するため**

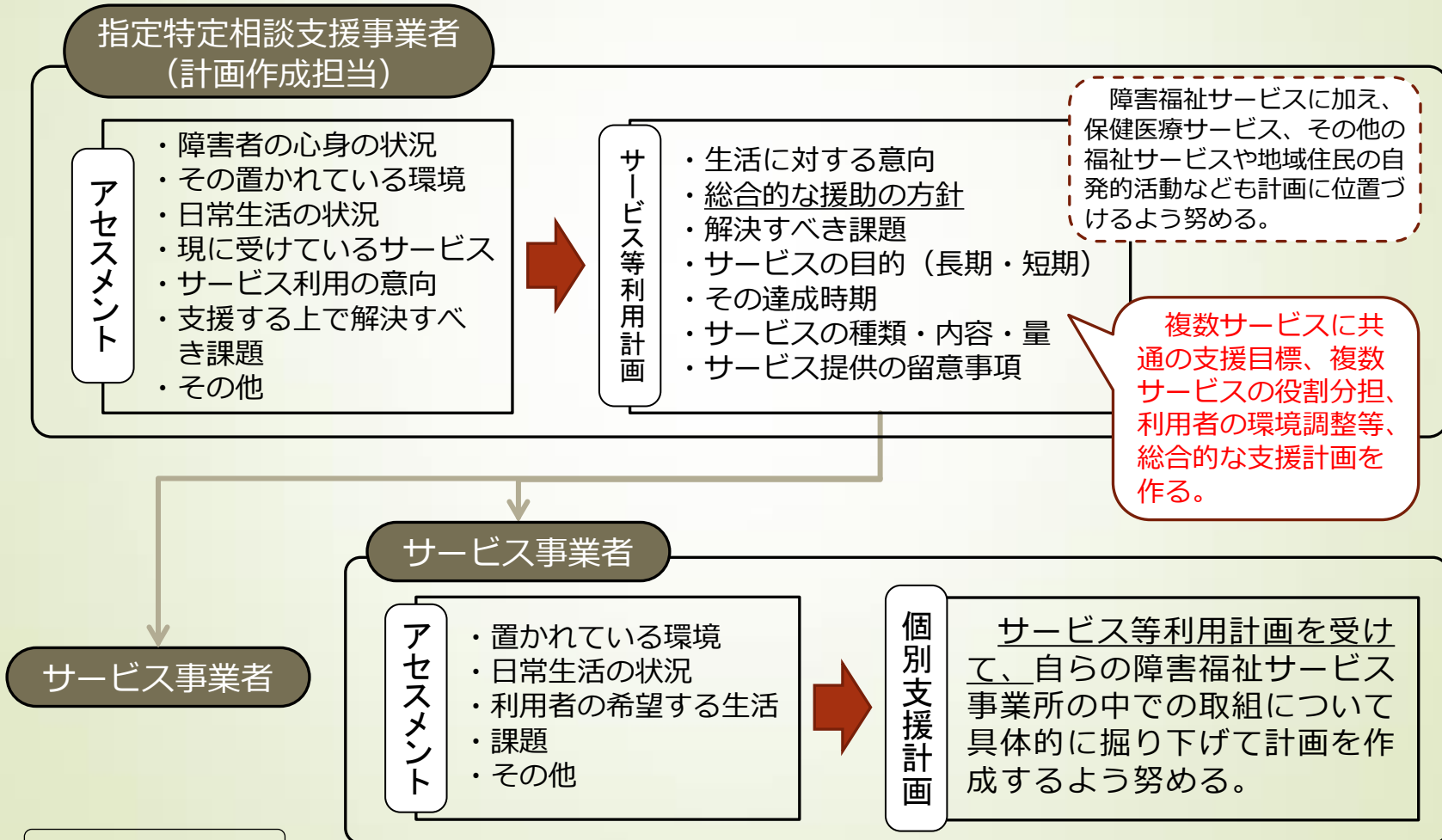
Why (なぜ)

When (いつ)  
Where (どこで)  
Who (だれが)  
What (なにを)  
How (どのように)  
(どれくらい)

# 2.

## サービス等利用計画と個別支援計画の関係

- サービス等利用計画については、相談支援専門員が、総合的な援助方針や解決すべき課題を踏まえ、最も適切なサービスの組み合わせ等について検討し、作成。
- 個別支援計画については、サービス管理責任者が、サービス等利用計画における総合的な援助方針等を踏まえ、当該事業所が提供するサービスの適切な支援内容等について検討し、作成。



# 計画の特徴

住まい・日中活動・暮らし（家事）・余暇（休日）…

サービス等利用計画（総合的）

連動

個別支援計画（個別的、具体的）

## 【サービス等利用計画】

利用者の生活全体を考慮し、希望される（必要な）生活を可能とするためのサービスや社会資源の活用等、総合的な支援、また、支援に関わる人たちがそれぞれの役割を果たせるように記したもの

⇒ 本人（セルフプラン）もしくは相談支援専門員が作成

## 【個別支援計画】

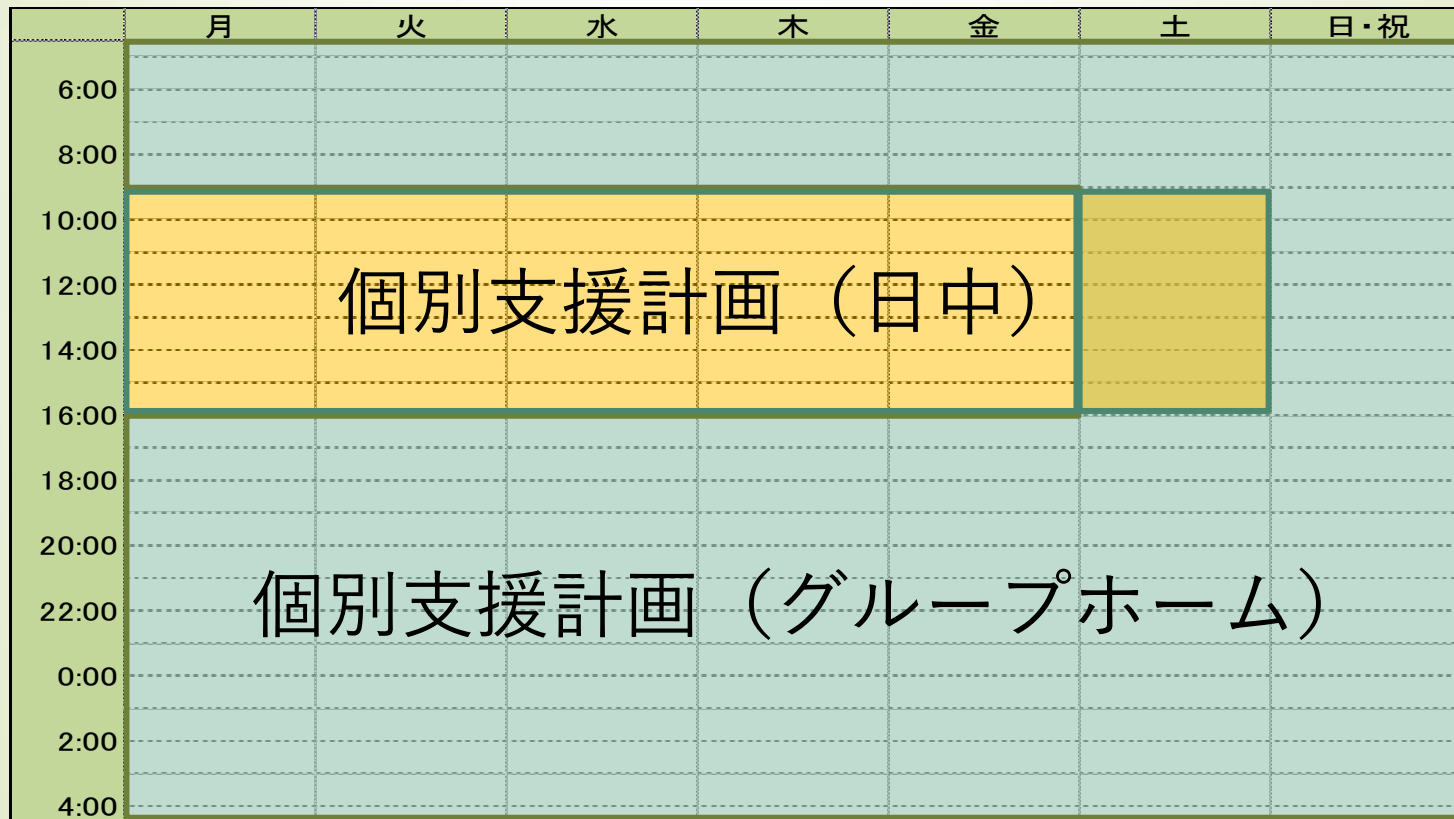
サービス事業所ごとの専門的なサービスを提供する上で、利用者のニーズを充足させるために、達成すべき目標や支援内容を具体的に記したもの

⇒ サービス管理責任者が作成



# 時間による計画の関係性

サービス等利用計画



# 計画の役割と関係性

## 相談支援専門員

### サービス等利用計画

卒業と同時に就職はできなかったけど、憧れのパン屋さんで働きたい。また、1人暮らしに向けて、自分らしい生活スタイルを作りたい。

パン屋に就職するための支援を受けたい

1人暮らしに向けて、生活スタイルを作りたい

友だちと定期的に来て、趣味を楽しみたい

複数のニーズ



## サービス管理責任者

希望する生活像（総合的なニーズ）

個別支援計画 A  
就労移行支援

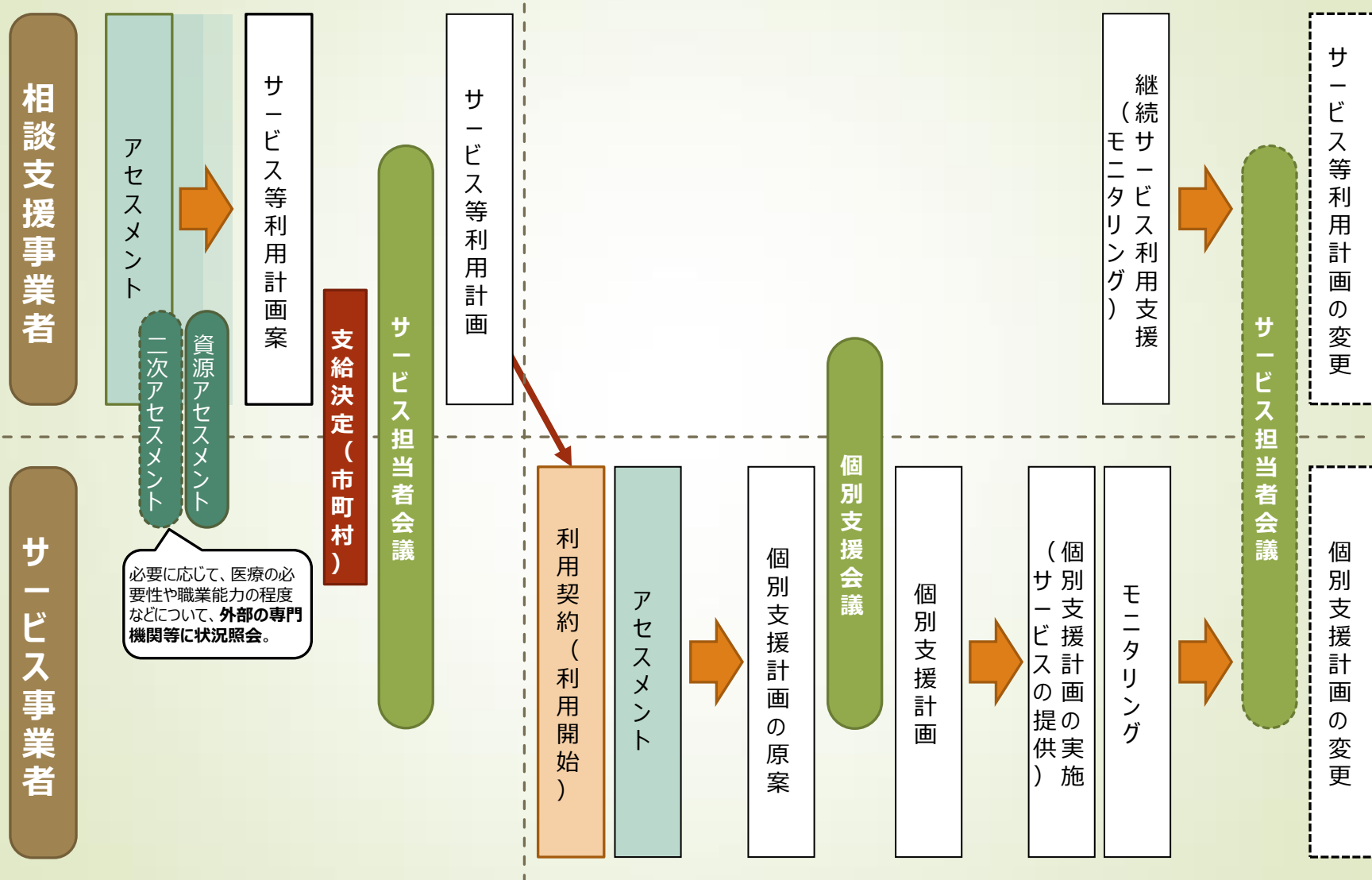
希望する生活像（総合的なニーズ）

個別支援計画 B  
共同生活援助（グループホーム）

希望する生活像（総合的なニーズ）

インフォーマルサービス  
家族 友人 先生の協力・助け合い

# 指定特定相談支援事業者と障害福祉サービス事業者の関係



\* 厚生労働省資料より引用

※点線枠部分は、必要により実施

# 3.

## 連携とは

### れんけい【連携】

（名） スル 〔「連絡提携れんらくていけい」の意〕

連絡を密に取り合って、一つの目的のために一緒に物事をすること。

「－プレー」「関係諸機関が－して研究開発を行う」

〔同音語の「連係・連繫」は物事と物事、人と人との間のつながりのことであるが、それに対して「連携」は連絡を取り合って一緒に物事を行うことをいう〕

大辞林 第三版より



利用者のニーズを充足させるため、  
チームで統一した目標に向かって支援を展開

# 連携の必要性

支援者の  
経験値だ  
けに依存  
した支援

使える  
社会資源  
をよく知  
らない

支援が  
うまくい  
かない

専門外の  
課題は見  
ないふり

自己完結  
自己満足  
の支援

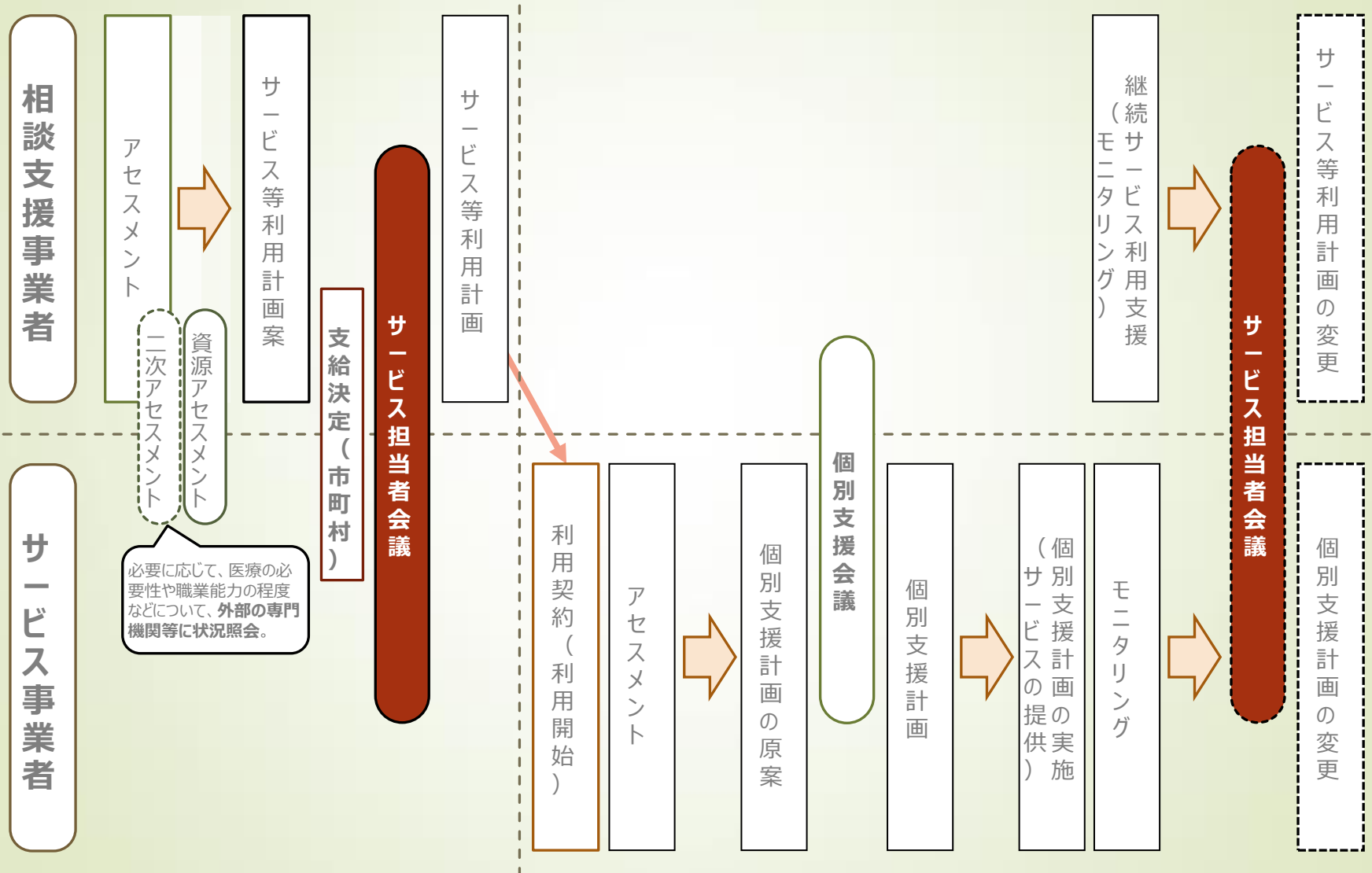
利用時間  
外のこと  
はよく知  
らない

今の支援  
が正しい  
のか分か  
らない

- ➡ 一事業所での関わりは、一つの側面でしかない
- ➡ 他事業所の違った視点から、客観的に見れる

生活全体を見据えたニーズを充足させる  
→ 一事業所だけの関わりでは限界

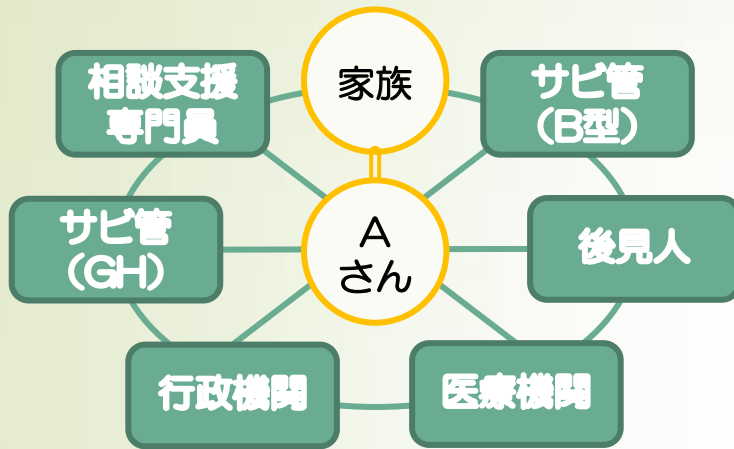
# 指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び 障害児相談支援事業者と障害福祉サービス事業者の関係



# 4.

## 会議を活用した連携 ～つながる～

### 【サービス担当者会議】



\* 相談支援専門員が開催

- 地域のフォーマルサービス・インフォーマルサービスなどの情報を共有をし、その役割を理解する
- 利用者のニーズや課題を共通理解し、支援の方向性、目標、計画について協議する
- サービス等利用計画におけるサービス事業者等の役割を相互に理解する

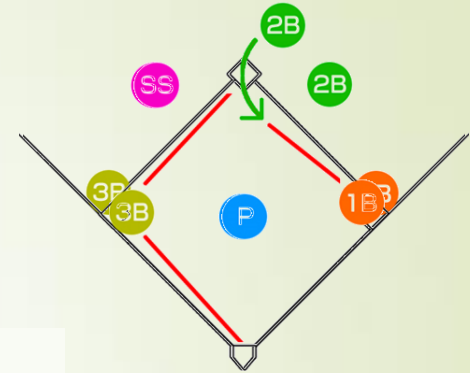
### ～つながる支援～

サービス管理責任者は、相談支援専門員等と連携して、個別支援の課題を解決するためのチームをつくり、地域でサポートするためのネットワークを組織する。

相談支援専門員によるサービス担当者会議に参加する。

# サービス担当者会議のポイント

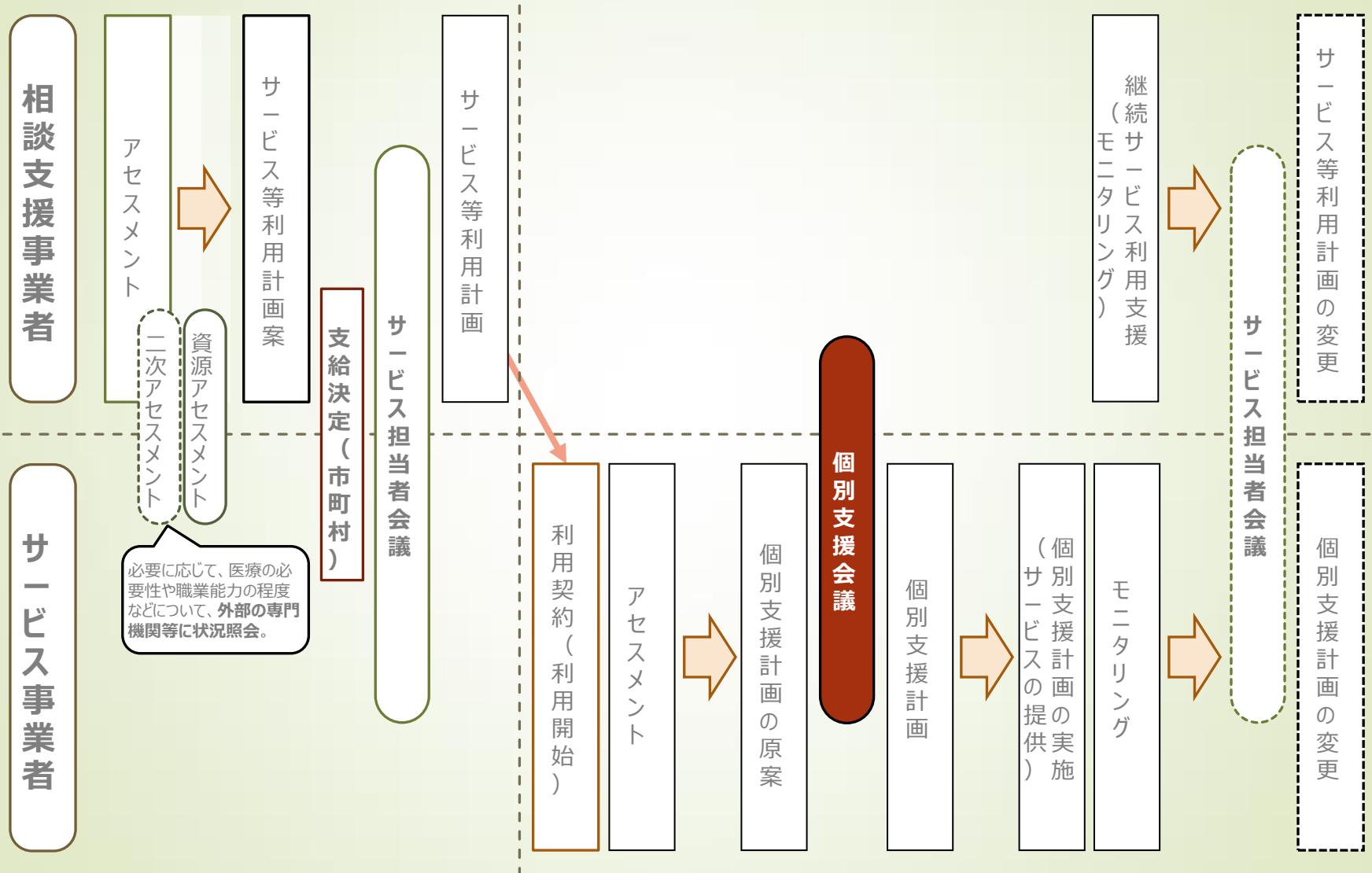
- ➡ 連携に向けたネットワークの構築
  - ➡ サービス事業所ごとの役割を確認する。  
⇒ ポジションの確認
  - ➡ 関係者が、利用者を中心とした顔の見えるネットワークを作る。  
⇒ 連携プレーに向けて
  - ➡ お互いに協力できるところを出し合い、支援の切れ目をなくす。  
⇒ お見合いエラーを防止



「誰が」だけではなく「誰のための連携か」を意識

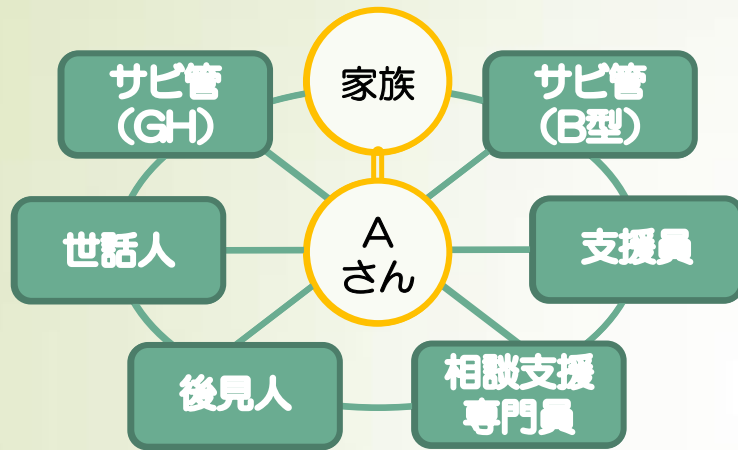


# 指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び 障害児相談支援事業者と障害福祉サービス事業者の関係



# 会議を活用した連携 ～深める～

## 【個別支援会議】



\* サビ児管が開催

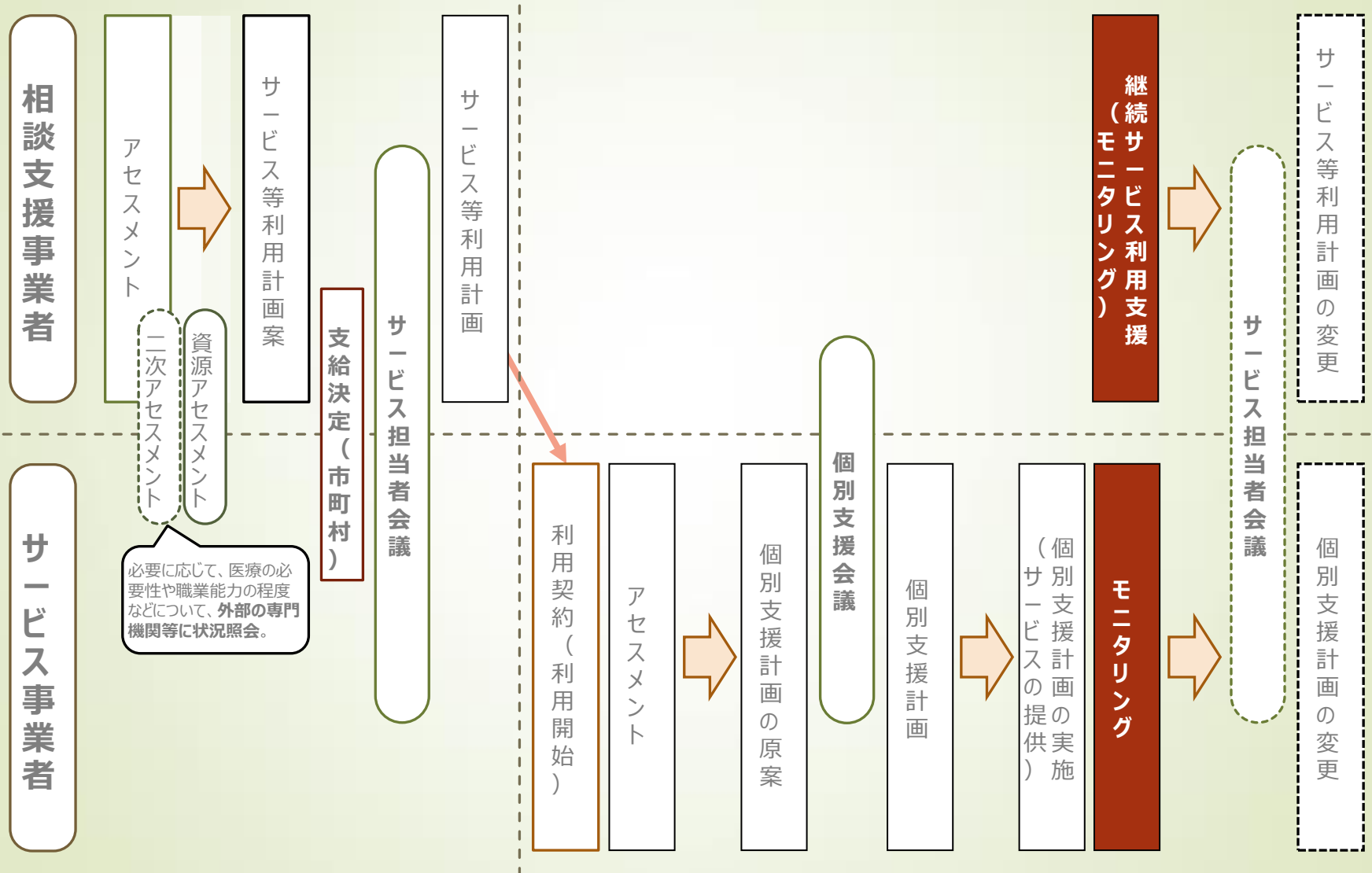
- サービス等利用計画に位置付けられた自サービス事業所の役割などを共通理解する
- 利用者のニーズや課題を共通理解し、支援の方向性、目標、計画について協議する
- 個別支援計画における支援者および関係者個々の役割を理解する

## ～ 深める支援 ～

サービス管理責任者は、サービス等利用計画をもとに個別的・具体的なサポートをするために、関係機関に呼び掛けて個別支援会議を開催し、個別支援計画を作成する。

支援を深めるための、事業所内での連携にも着目する。

# 指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び 障害児相談支援事業者と障害福祉サービス事業者の関係



# モニタリングの目的

PDCAサイクルの「C(チェック)」

⇒ 確認 (評価)

\* 全てが計画通りにいくとは限らない



➡ サービス（支援）の内容は適切か？

→ ひとつの支援にこだわっていないか（俯瞰的視点）

\* 技術は日進月歩（絵カード・写真→スマホ）

➡ 目標の達成度、ニーズの充足度は？

→ 充足していない場合は原因を分析

➡ 利用者の状況に変化は？（変化を見逃さない）

→ 状態（状況）は変化するもの（周囲の変化も影響）

# モニタリングにおける連携

- ➡ 相談支援事業者の行う「継続サービス利用支援のモニタリング」とサービス事業者の行う「個別支援計画を見直すためのモニタリング」の時期は必ずしも一致しない。
- ➡ しかし、個別支援計画を見直す必要が生じ、その見直しによりサービス等利用計画を見直すまで大きく支援の方向性を変更する場合は、サービス担当者会議の開催が必要となり、個別支援計画とサービス等利用計画の双方ともを変更する。

※「個別支援計画」と「サービス等利用計画」の内容と方向性にブレが生じないよう、サービス事業者のモニタリング結果を相談支援事業者へ情報提供する等の連絡は密におこなう。

# 5.

## 総合的なニーズと個別ニーズ

### 横の連携

【相談支援事業所】

サービス等利用計画書

総合的なニーズ  
「生活リズムを整えて  
パン屋さんで働きたい」

連携

連携

個別支援計画書

個別ニーズ

「パン屋さんで働きたい」

個別支援計画書

個別ニーズ

「グループホームで暮らしたい」

連携

【就労移行支援事業所】

【グループホーム】

# 途切れない継続的な支援

## 縦の連携

ライフステージの変化 ← 本人の状態だけでなく  
様々な環境も変化する

乳幼児期

出生 ➡ 乳児期 ➡ 幼児期

学 齡 期

小学校 ➡ 中学校 ➡ 高 校

成 人 期

青年期 ➡ 壮年期 ➡ 高齡期

- 支援者
- 学校
- クラスメイト
- サービス
- 活動内容
- 通所方法

etc..

ライフステージごとの支援をリセットするのではなく、  
次のステージにつないでいく

↓ ➡ の移行期支援では会議の場を活用した連携が重要

# ライフステージによって関わる機関

## 乳幼児期 (0歳～)

保健所（保健センター）  
医療機関  
福祉事務所  
（家庭児童相談室）  
児童相談所  
保育所、幼稚園  
児童館等  
児童発達支援事業  
児童発達支援センター  
障害児入所施設  
相談支援事業所 等

## 学齢期 (6歳～)

小学校、中学校  
高等学校  
特別支援学校  
福祉事務所、児童相談所  
医療機関、療育機関  
教育相談所  
教育委員会  
放課後等デイサービス  
放課後児童クラブ  
障害児入所施設  
相談支援事業所 等

## 学齢後期 (～18歳)

卒業後を見据えた支援

企業  
障害福祉サービス事業所  
（実習、体験等）  
医療機関  
地域障害者職業センター  
ハローワーク  
障害者就業・生活支援センター  
相談支援事業所 等

➡ 機関によっては長い関わりがある。



# 連携が生み出すもの

- ▶ 他者（多職種）との関わりの中で、専門的知識や価値観・視点の違いによって新たな気づきが得られ、相互に成長できる。
- ▶ 支援者が相互にチェックできることで権利擁護の視点が強化され、パターンリズム（利用者の意向を差し置く介入や干渉）の防止にも繋がる。
- ▶ ベストインタレスト（本人にとっての最善の利益）の追求において、関わる人の成育歴や価値観が影響してしまうことを抑制できる。
- ▶ 将来（像）を見据えた連続的で一貫性のある支援ができる。（ライフステージを通じた支援）



# サービス等利用計画と 個別支援計画の関係（第2部）

（対談）～事例から考える計画と連携の重要性～

社会福祉法人 一羊会  
相談支援事業課「こんぱす」  
管理者 中村喜弘

社会福祉法人 福成会  
島 祐貴

# 事例から考える計画と連携の重要性

## 【Q1】

サービス担当者会議などで、ご本人のニーズや支援の方向性が共通認識されていたことで、うまくいった支援事例

# 事例から考える計画と連携の重要性

【Q2】

共通認識がうまくできていなかったことで、うまくいかなかった失敗事例

# 事例から考える計画と連携の重要性

【Q3】

小→中→高とライフステージが変わる  
移行期におけるのつなぎ「縦の連携」  
についての事例

# 事例から考える計画と連携の重要性

## 【Q4】

移行期支援における「縦の連携」について、中村さんが気を付けていることや大切にしていること

## 第2部のまとめ

- 会議の場を活用した連携では「ご本人のできること」に着目し情報を出し合う。また、支援を検討するうえでは誰のための連携なのかを意識し、サービス事業所同士が連携しながら支援を展開するいわゆる「横の連携」が重要になる。
- 支援に携わるメンバー全員が、支援の根拠や目的、方向性を共通認識しておくことで、利用者のニーズを充足させ、自分らしい生き方の実現につながる。
- ライフステージが変化する移行期支援では、そこまでに深めてきた支援をリセットするのではなく、次のステージへとつないでいくことで、切れ目のない継続的な支援ができる。
- 家族支援では「主体は本人」であることの意識が重要。

# さいごに

- ➡ 目の前の利用者は、「1 / 〇の存在」ではありません。
- ➡ 「誰のため？」と原点に立ち返り、
- ➡ 各専門職の専門性を発揮して得意分野を活かし、
- ➡ 支援の切れ目ができないよう、支援者でできることを出し合いながら、
- ➡ 利用者の「自分らしく暮らしていく」という思いをチームで実現しましょう！
- ➡ そして、「あなたと出会えて良かった」と思っただけのような支援者を一緒に目指しましょう！